



(公社)佐倉市シルバー人材センター
ホームページ

ハローシニア佐倉

(公社)佐倉市シルバー人材センター

今回は、北総台地に広がる近代的複合都市として注目されている千葉ニュータウンの中心部にあり、近郊に里山も多く残す「住み良い街」人気ランキングの高い印西市にあって、住宅街からやや外れた草深地区に廃校を利用して作られた「そっふけふれあいの里」内に平成17年に移転した印西市シルバー人材センター(印西市SC)を訪問して、田畑常務理事兼事務局長にお話を伺いました。

人材センター訪問 第7回 印西市シルバー人材センター



左/広報担当 生澤様、右/田畑常務理事兼事務局長

(佐) 大型商業施設のある千葉ニュータウンならではの印西市SCの特色は—

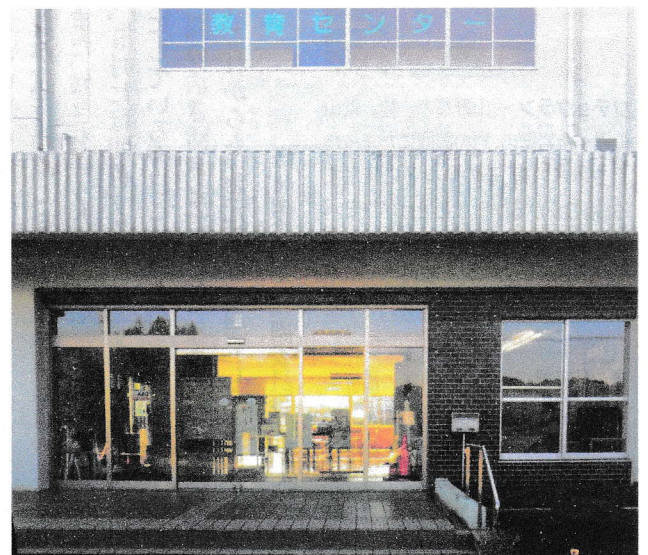
(印) 近年、進出してきている大型商業施設等の法人契約件数のウエイトが高くなっているように思います。ただ大きな環境変化によるマイナス要素を想定した場合、公園等の公共施設も他のSCから比べて多いので、今後、さらに公共の仕事に注力していきたいと考えています。

(佐) 会員拡大の為に取り組んでいる活動は—

(印) 入会募集のちらしを市に協力してもらい、回覧板で3000枚を配布し、ポスターちらしなどを公民館・郵便局、あと5力所ある駅(JR北総線)に置かせてもらっています。商工会にもお願いして900社へちらしを配布しました。

(佐) 今後の事業運営拡大に向けての策は—

(印) 高齢化の進む社会にあってSCの役割が期待されているので、まず会員増強を推進して行くのが優先であり、市民にSCの存在を知ってもらえる様にあらゆる機会を利用してPR活動を続けたい。都内通勤の方の中には、語学、資格、豊富な職歴を持つ在住者も多いのでぜひ入会を進めて行きたい。でも会員になっても未就業者が多いのも現実なので、仕事の契約先を増大させる事業計画もしています。既存の商業施設はもちろん、データセンターなど新たな企業進出の拡大に期待しています。



(佐) 余談ですが、田畑事務局長との名刺交換の際に、もう一枚名刺をいただき、その肩書きに高知県観光特使となっていました。以前勤務されていた所の観光PRもなさっているようですので、ぜひ皆さんも1度高知県へ足を運んでみては、いかがでしょうか。

印西市 SC 概要

区分	印西市 SC	佐倉市 SC
会員数 (令和2年10月末)	400名	1,077名
女性比率 (令和2年10月末)	25.8%	30.0%
受注件数 (令和元年度)	1,116件	18,089件
受注金額 (令和元年度)	225,788千円	568,027千円
公共:民間比率	22:78	15:85
人口 (令和2年10月末)	105,463人	174,237人
面積	123.79km ²	103.69km ²

印西市SCの皆様、この度はお忙しい中、取材に対応して頂き有り難うございました。

取材担当/広報委員 長谷川 幸雄

流行の言葉

最近よく耳にする「ICT」とは何？

【情報通信技術】の意味で、IT（情報技術）に通信・伝達加わった言葉です。コンピュータによる情報処理にとどまらず、インターネットのような通信技術を活用したコミュニケーションを指します。



では、どのように活用されているの？



テレビ等でも紹介されていますが、学校の授業でPCやタブレット（携帯機器）が導入されたり、最近のコロナ禍では、自宅学習や会社員のテレワーク（在宅勤務）でICTが活用されています。

また、一人暮らしの高齢者の状況をインターネットを通じて見守るサービスも開始しており、介護・医療現場の人手不足を解消しながら、高齢者が暮らしやすく健康に暮らせる社会の実現に向かっていきます。

センターの仕事に活用できないの？



会員皆さんにとって一番の手間は、センターへの報告ではありませんか？

仕事が終わる度に、就業報告書を書き、センターへ提出する時間が短縮されれば、自分の時間が増え、有効に使えるでしょう。また、就業の伝達も電話や書面でやり取りするのではなく、通信機器を使用してどこでも確認出来たら便利だと思いませんか？

センターでは、皆さんの負担を軽減し、事務処理の円滑化を目指して、業務のICT化を進めているのです。

「ICT推進分科会」が発足しました



この11月、理事活動委員会に、仕事の効率化を第一目的とした、「企画委員会（ICT推進分科会）」が立ち上げられました。佐々木明也副会長兼委員長を始め5名の委員で構成され、デジタル化により、センター業務の負担を軽減するアイデアの検討を開始しました。

実現には時間がかかるかも知れませんが、今後は「新しい仕事様式」に変化するに相違ありません。これからの活動に期待しましょう。



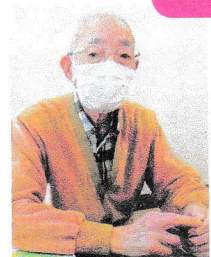
スマホやタブレットを操るシルバー世代は、若者の目には格好よく映るそうです。皆さんも、新しいことに挑戦してみたいはいかがでしょうか。

記事担当 / 広報副委員長 葛西 正敏

人と趣味

ウチヨウラン（羽蝶蘭）を愛でる

高橋公輔 植木職名誉顧問



来年、めでたく米寿を迎えられる高橋さんは、多趣味でいらっしやいます。中でも希少な「ウチヨウラン」の栽培がお好きとの事で、お話を伺いました。

ご自身は、植木職3期生で活躍され、その後は講師として15期生まで後進をお育てになり、現在は、白井地区植木職の顧問をなさると同時に、表装同好会会員として自適の生活をされています。その高橋顧問が、この度「ウチヨウラン」への思い入れを楽しくお話しくださいました。

今から15年ほど前、知人から苗を10株いただいたものが、今では数倍になり、丹精込めて育てているそうです。写真のように、綺麗な花が心を和ませてくれます。このウチヨウランは山野草で、あまり手に入らない貴重な花なので、育て方の手本もなく、ご自身が試行錯誤しながらお育てになったとのこと。また、寒さを嫌うため、栽培に適した時期は3月頃で、5月には開花するそうです。来春の到来を心待ちにしている今日この頃とのことでした。

顧問の活き活きとお話しになるお姿が印象的でした。これからも、お元気にお過ごしください。

取材担当 / 広報副委員長 葛西 正敏



羽蝶蘭とイワヒバ(岩檜葉)

ウチヨウラン - 山野草の一種。低山の湿った岩壁の、岩の隙間にたまった土や草木の根、苔の中などに自生する。霧のかかる崖壁などではイワヒバなどと共に生息する。草丈5-20cm前後。茎は斜上し、広線形の長さ3-10cm、幅4-7mmの葉が2-3枚付く。茎の先端に数個から数十個の花をつけ、花色は通常は紅紫色。唇弁に濃紅紫色の斑紋と距がある。花期は5-8月。地下には小豆大から小指頭大の球根があり、春に新芽を出す。夏の生長期に1-3個程度の新球根ができ、秋に地上部が枯れ球根だけで越冬する。

職群紹介 図書館管理班



今日は人気のお仕事の一つ、図書館管理の業務を取材するために、3つの図書館にお伺いしました。

仕事の様子は
スマホでご覧
下さい
動画



3図書館に27名が従事

カウンター受付業務を中心とする図書館管理のお仕事は、常に順番待ちの登録者がいるほど人気の業務とのことです。現在、当センターから、佐倉図書館で5名、志津図書館で12名、佐倉南図書館で10名の会員が働いています。受付業務の時間は図書館の職員さんと補助員さんの勤務が終わった夕方5時から閉館の8時まで。休館日は通常月曜日なので、土日も平日同様の勤務になります。毎日5時以降は、市内6つの図書館のうち主要な3つの図書館は、全て当センターの会員さんだけで運営されていることとなります。

仕事はパソコンを使い多岐に

志津図書館で働いている佐々木班長からお話を伺いました。班の構成は12名、6名ずつ2組に分かれ1日交代のシフトが組まれています。平日は5名、土日は6名体制。佐々木班長から班の皆さんへは7名がラインで、4名がメールで繋がり、迅速な連絡体制ができています。

ここにも小さなICTの動きが垣間見られました。出勤者は4時45分頃までに全員集まり、バックヤードでの準備の後、業務に先立ち、当日の担当割の確認や申し送り事項の伝達などが行われます。

佐々木班長が作られた業務マニュアルを見せて頂きました。基本は書籍や雑誌の貸出と返却受け入れの仕事

ですが、その他にも視聴覚(AV)の貸出返却、他図書館の書籍の取扱い、佐倉市民以外の利用者の対応、利用者登録手続きなど、多岐に渡って事細かな取り扱いルールが定められています。

利用者を待たせることなく、それらをパソコンで適切に迅速に処理する必要がある為、慣れるまでには結構な時間がかかるお仕事だと感じました。



佐々木班長

8時に閉館された後、終業時のチェックを終えて8時15分に終業となります。終業時のチェックマニュアルには、電源を切ったり施錠したりと28項目のチェック項目があり、それを毎日1項目ごとシートに確認マークを付ける運用になっています。



佐倉図書館

左から 新谷さん、後藤さん



志津図書館

左から 小泉さん、栗生さん、真野さん、早川さん、小笠原さん、佐々木班長



佐倉南図書館

左から 梨木さん、穴澤さん、高木さん、長谷川さん

隠れたコロナ対策

図書館のコロナウィルス感染予防対策では、閲覧座席数の縮小、貸出カウンターのシールド設置、筆記用具の消毒、マスクと手袋着用などと万全な対策が取られています。さらに、返却された書籍については、次の予約が入っているものは予約貸出の棚に回され、消毒してから貸し出される一方、次の予約がないものは3日間隔離保管された後で、初めて書棚に戻されることになっています。利用者には見えないコロナ



対策のひとつです。

写真撮影のため、勤務時間の夕刻に3図書館にお邪魔しました。佐倉図書館では徳屋館長から令和5年3月閉館予定の新図書館の説明を伺いました。志津図書館では6時近くまで多くの利用者がおられました。佐倉南図書館では設置されたばかりのLEDライトが、高い天井を尚更高く美しく見せていました。



最後に佐々木班長に、この仕事をしていた困ったこと、嬉しかったことをお聞きしました。「困ったことは、以前ある常連の利用者が毎回閉館間際に、3階の書庫にある本を捜して欲しいと言って来られたこと。嬉しかったことは、今でもそうですが、色々な場面でお客様から頂く『ありがとう』との、短いながらも暖かい感謝の言葉。」とのことでした。

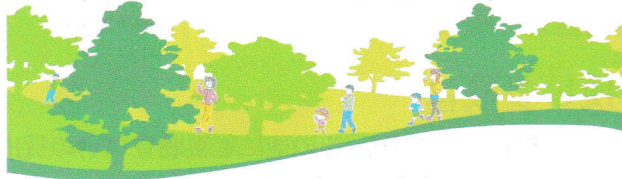
取材にご協力頂きました図書館管理班の皆さん、ありがとうございました。

記事担当 / 広報委員 小野寺 弘孝

ディスカバー佐倉

第1回

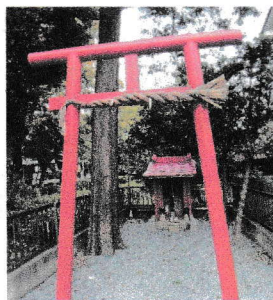
いい処があります！ 加賀清水



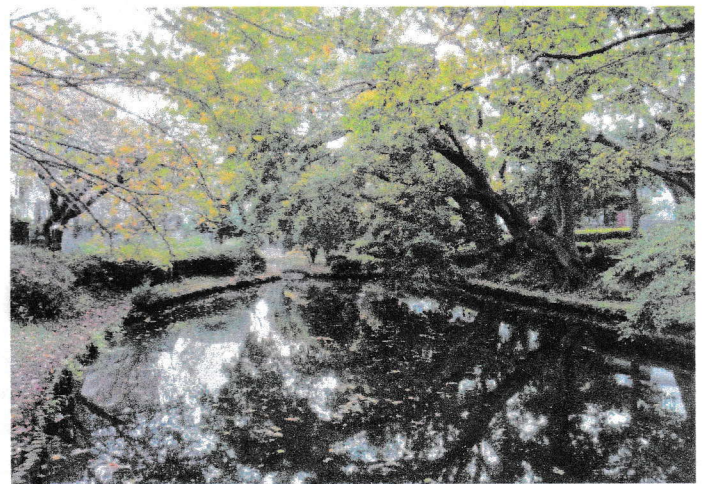
湧水 佐倉城初代城主の土井利勝が江戸と往還するようになって佐倉道と称された街道は、江戸の中頃には庶民信仰による成田山新勝寺への参詣で賑わい、やがて成田道と称された。大和田宿から次の臼井宿に向かう旅人は道中なかほどの井野の茶店“あずま屋”で一服し、近くに湧き出る



清水を竹筒に満たした。第八代城主の久保加賀守忠朝はこれを愛飲し、江戸との往来時には必ず立ち寄ったところから『加賀清水』と呼ばれるようになった。



静かな散策池 時代が現代に移って周辺の開発が進むと湧水は枯れはじめた。『何とかせねば！』と、この地の住民と行政が立ち上がって住宅敷地内に雨水浸透柵を設置する運動に取り組み、これを復活させた。今は湧水を湛える一周250歩ほどの池には鯉が泳ぎ、年輪を重ねる樹木の影も四季折々に映る。池から流れ出た湧水は、桜の頃、ひらひらと舞い落ちた花びらの筏を流す。加賀清水公園として当SCの志津地区会員にも親しまれている。



道標 成田山道

歌舞伎十八番を選定した七代目市川團十郎も『加賀清水』には殊のほか親しみ、成田山参詣の旅人のためにと道標を建立した。『天はちち 地はかかさまの 清水かな』と“加賀さま”を掛けて詠んだ句を刻んでいる。



子都手留会(しってるかい)発行の「佐倉こどもかるた」より一部引用しました。

難所を越えて さて、團十郎の道標をあとに旅人は、街道一番の難所を越えて、臼井宿をめざす。井野の少し先からは、すり鉢状の浅い皿の底に向かうようにゆっくりと10mを下ってから上座に向けて上る。そこから手繰川に向けて20mほど坂を下って橋を渡ると、左にとる道の先に難所の臼井台の峠が待ち受ける。21mの上り坂である。このあたりは日中でも薄暗いほどに木が生い茂るうえに足元も悪く、つま先上がりからしだいに勾配も急になり、雨の後は特に難渋を極めたという。やっと平らになってしばらく進み、妙伝寺の新坂を下ってようやく臼井宿に入って印旛沼が見えたところで、竹筒に残る加賀清水をぐくりと飲み干す。

取材担当/広報委員 徳野 廣一

アクセス

京成志津駅から国道296号沿いの道標を経由して加賀清水公園まで徒歩600m(8分) ※公園に駐車場なし